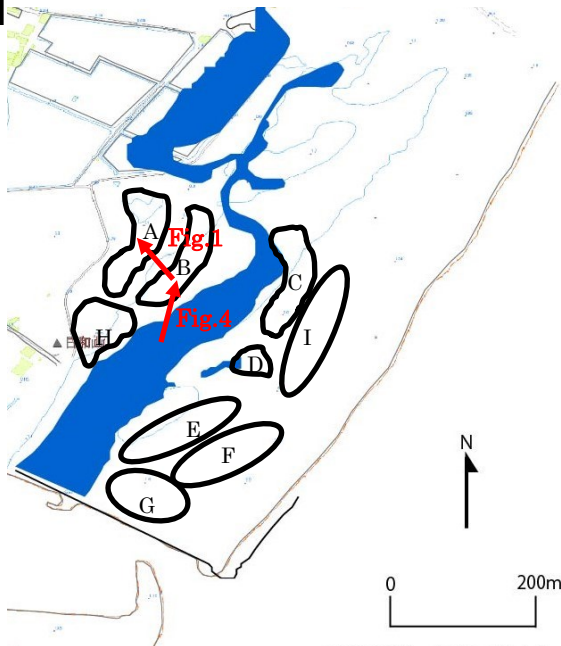


蒲生干潟の植物⑨



2020/12/22 調査エリア 2020年12月調査



Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアHで撮影



Fig.4 エリアBを南南西側から撮影

調査日時：2020年12月22日（火）10:30～12:30，天気：晴れ

エリアAのヨシには、全く緑色の葉が見られなくなり、すべて小麦色に変化していた(Fig.1)。先月までは、多くのヨシの穂先が綿毛で大きく発達していたが、今回は穂先の綿毛が飛ばされたものが多くなっていた(Fig.2)。エリアHで群生していたシオクグは、小穂がついていた茎の部分は無くなり、枯れた葉が残っていた(Fig.3)。エリアB, C, E, Hでは、ハママツナが群生しているが、どのエリアでも先月から緑色の部分は見られず、すべて立ち枯れた状態になっていた(Fig.4)。



Fig.5 エリアCで撮影



Fig.6



Fig.7 エリアCで5月15日撮影



Fig.8 エリアFで撮影

5月15日に撮影した写真からも分かるように、エリアCやエリアIではコウボウシバが群生している(Fig.7)。今回の調査では、エリアC内の潟湖から離れた場所やエリアIで、コウボウシバの種子が集まっている箇所が複数見られた(Fig.5, Fig.6)。夏に穂をつけて直立していた茎は今回は見られず、葉が枯れて残されていた(Fig.5)。エリアFでは、コウボウムギが立ち枯れし、まわりには種子が落ちていた(Fig.8, Fig.9)。

(丹野美紀)



Fig.9 エリアFで撮影